

問1 北条泰時が制定した御成敗式目の別称で、制定された年号に由来する呼び名を何という？

1. 武家諸法度 2. 建武式目 3. 貞永式目 4. 公事方御定書

問2 鎌倉文化に見られる、武士の気風を反映した特徴を表現する言葉として「何々さ」とよく言われるものは？

1. 写実性 2. 躍動感 3. 素朴さ 4. 力強さ

問3 鎌倉時代に広まった仏教の新しい宗派の一つで、ひたすら座る修行を行うことを重視した宗派を何という？

1. 真言宗 2. 浄土宗 3. 天台宗 4. 曹洞宗

問4 源頼朝が全国に配置した、軍事・警察権を持つ役職である「守護」と、荘園や公領の管理・年貢徴収を担う役職をまとめて何という？

1. 院庁・検非違使 2. 守護・地頭 3. 摂政・関白 4. 国司・郡司

問5 鎌倉幕府が成立当初、支配の中心としていた地域を何という？

1. 南日本 2. 北日本 3. 東日本 4. 西日本

問6 鴨長明が活躍し、古典文学が発展した時期を何という？

1. 鎌倉時代 2. 奈良時代 3. 平安時代 4. 室町時代

問7 鎌倉時代、幕府の打倒をめざして挙兵し、敗れて隠岐に流された人物は誰？

1. 後白河上皇 2. 崇徳上皇 3. 後鳥羽上皇 4. 後醍醐天皇

問8 十三世紀後半、モンゴル帝国から日本へ侵攻してきた軍隊を何という？

1. 元軍 2. 朝廷軍 3. 平氏軍 4. 鎌倉軍

問9 鎌倉幕府において、将軍が御家人に本領を安堵したり新恩を給与したりすることと、御家人が軍役などを果たすことの結びつきを何という？

1. 御恩と奉公 2. 本領安堵 3. 新恩給与 4. 年貢徴収

問10 マルコ・ポーロが記した『東方見聞録』の別名を何という？

1. 東方見聞録 2. 世界の記述 3. 三国遺事 4. 元史

問11 『東方見聞録』を記した、モンゴル帝国のフビライ=ハンのもとを訪れたイタリアの旅行家は誰？

1. フビライ・ハン 2. イブン・バトゥータ 3. コロンブス 4. マルコ・ポーロ

問12 鎌倉幕府が、年貢の徴収や土地の管理、治安維持のために各地に置いた役職を何という？

1. 守護 2. 評定衆 3. 執権 4. 地頭

問13 鎌倉幕府が、地方の軍事や警察、徴税を行うために設置した役職は守護と何か？

1. 執権 2. 評定衆 3. 守護 4. 地頭

問14 『方丈記』において、乱世の出来事を通じて描かれた仏教的な思想を何という？

1. 浄土信仰 2. 無常観 3. 末法思想 4. 現世利益

問15 鴨長明が著した『方丈記』のように、作者自身の見聞や感想などを自由な形式で書いた文章のジャンルを何という？

1. 物語 2. 日記 3. 随筆 4. 日記文学

答え合わせ・解説

問1	答え 3 貞永式目	制定された1232年の元号が「貞永」であったため、御成敗式目は「貞永式目」とも呼ばれます。特に、守護の権限を警察・裁判権に限定する「大犯三箇条」などが規定され、御家人の権利を守る内容が含まれていました。
問2	答え 4 力強さ	「力強さ」とは、鎌倉文化を象徴するキーワードです。武士の生活や気風を反映し、華美な貴族文化とは対照的に、写実的で現実味のある表現が好まれました。
問3	答え 4 曹洞宗	曹洞宗は、宋から帰国した道元が日本に伝えた宗派です。特定の経典や修行にとらわれず、ただひたすらに座禅を組む「只管打坐（しかんたざ）」を修行の中心に置きました。この教えは、地方の武士や農民にも広く浸透していきました。
問4	答え 2 守護・地頭	頼朝は、朝廷の許可を得て、各国に「守護」を、荘園や公領ごとに「地頭」を置きました。守護は軍事・警察・徴税などを指揮し、地頭は土地の管理や年貢の取り立てを行いました。これにより、全国的な武家による支配体制が整いました。
問5	答え 3 東日本	鎌倉幕府の当初の支配圏は、主に「東日本」に限られていました。これは頼朝が相模国（神奈川県）の鎌倉を根拠地としたためです。
問6	答え 1 鎌倉時代	この時代には、戦乱の不安や厳しい生活環境を背景に、無常観を混えた文学が発展しました。鴨長明の『方丈記』のように、世の移り変わりや自然の厳しさを冷静に見つめる作品が数多く書かれました。
問7	答え 3 後鳥羽上皇	1221年、上皇は全国の武士に対して幕府討伐の院宣を出し、挙兵しました。これが「承久の乱」です。しかし、北条政子らの主導により幕府軍が迅速に対応したため、朝廷側は敗北しました。その結果、首謀者である後鳥羽上皇は隠岐へ流されることとなりました。
問8	答え 1 元軍	元軍は、モンゴル人を中心に、支配下の漢人や高麗人などを加えた巨大な連合軍でした。火薬を使った「てつほう」などの兵器を使い、集団で組織的に戦う戦法をとったため、個人の武勇を競う当時の武士たちを苦しめました。
問9	答え 1 御恩と奉公	将軍が武士（御家人）の土地の支配を保障することや、新しい土地を与えることを「御恩」といいます。対して、武士は京都や鎌倉の警備をしたり、戦いの際に軍役に務めたりする「奉公」を行いました。この相互の契約関係が幕府の統治の基盤となりました。
問10	答え 2 世界の記述	『世界の記述』（あるいは『驚異の書』とも呼ばれる）は、モンゴル帝国（元）のフビライ＝ハンのもとでの体験、中国の高度な文明、さらには日本などの周辺国の様子が描かれています。これにより、ヨーロッパの人々に東洋の地理的な広がりを伝え、当時の人々の世界観を根本から書き換えました。
問11	答え 4 マルコ・ポーロ	マルコ・ポーロはヴェネツィア出身の商人であり、中央アジアを通過して元の都（大都）へ渡り、フビライ＝ハンに仕えました。帰国後に投獄された際、同房の人物に語り聞かせたアジアの記録が『東方見聞録』としてまとめられました。
問12	答え 4 地頭	地頭は、荘園や公領において年貢の取りまとめや土地の管理を行いました。また、治安維持や裁判の補助を行う警察的な役割も担うようになり、次第に現地の武士として強い権力を持つようになりました。
問13	答え 4 地頭	守護は各国の軍事指揮や治安維持を行い、地頭は荘園や公領の管理、年貢の徴収を行いました。これにより、幕府は朝廷の権限が強い地域にも介入できるようになりました。地頭の中には、横暴な振る舞いをして農民や荘園領主とトラブルを起こす者も多く、幕府の権力基盤としての側面と、社会問題の原因という側面を持っていました。
問14	答え 2 無常観	無常観とは、この世のすべての存在は常に変化し、永遠に続くものはないという仏教の教えです。鴨長明は『方丈記』の中で、京都の大火や地震などの惨禍を描き出し、人間の力ではどうしようもない儚さを無常観として表現しました。
問15	答え 3 随筆	随筆は、特定の形式にとらわれず、著者が感じたことを素直に綴る形式です。鴨長明の『方丈記』は、社会の無常を独自の視点で捉えた傑作として、中世文学の代表とされています。